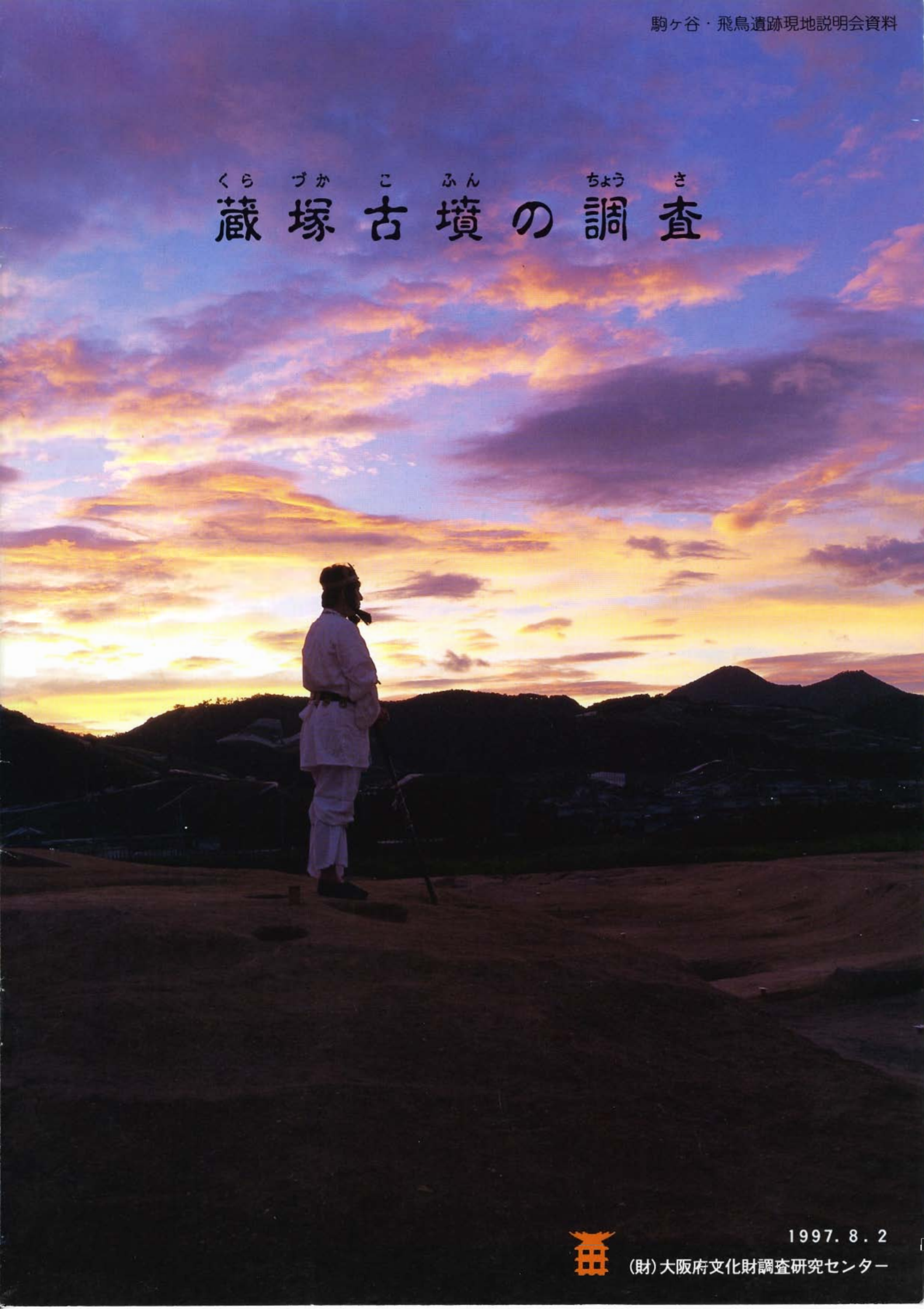


くら づか こ ふん ちょう さ
蔵 塚 古 墳 の 調 査

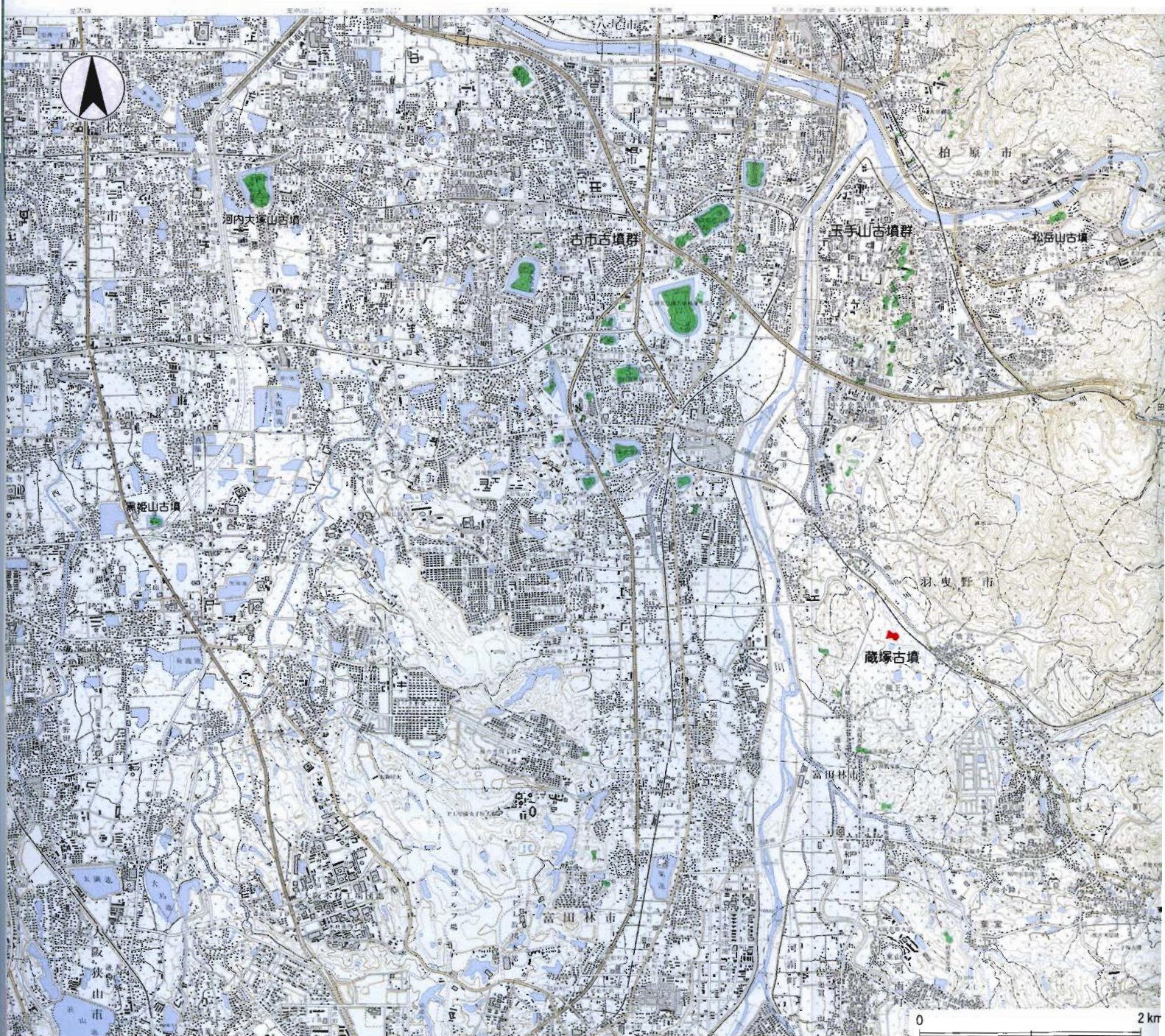


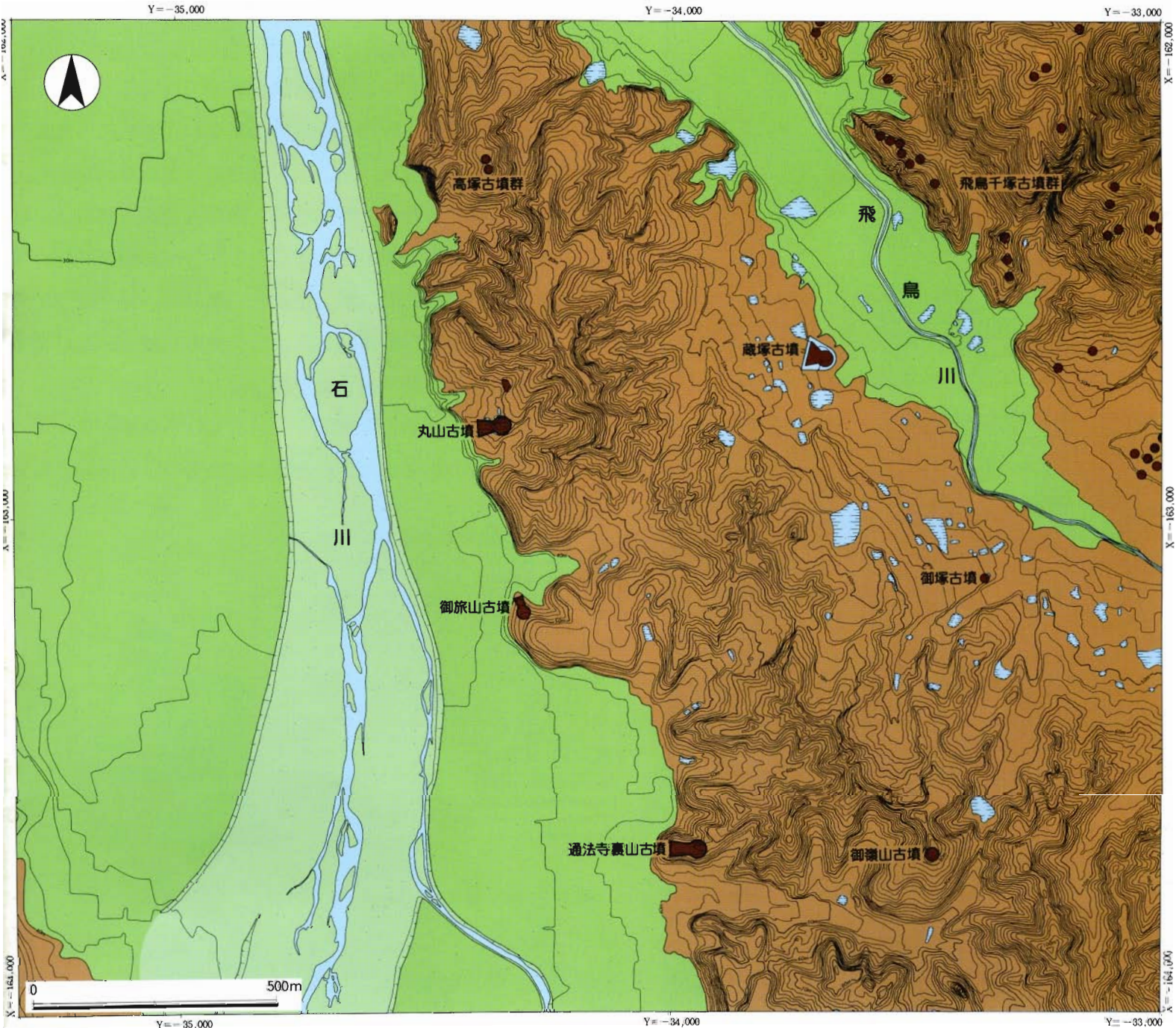
今回の調査で新に発見した前方後円墳である蔵塚古墳は大阪府羽曳野市飛鳥に所在しています。

周辺地域における前方後円墳の分布を大きく見ると、石川の西側には伝応神天皇陵に代表される大規模な中期の前方後円墳を中心とする古市古墳群が展開しており、北側に位置する玉手山丘陵上には前期の前方後円墳が累々と築かれています。

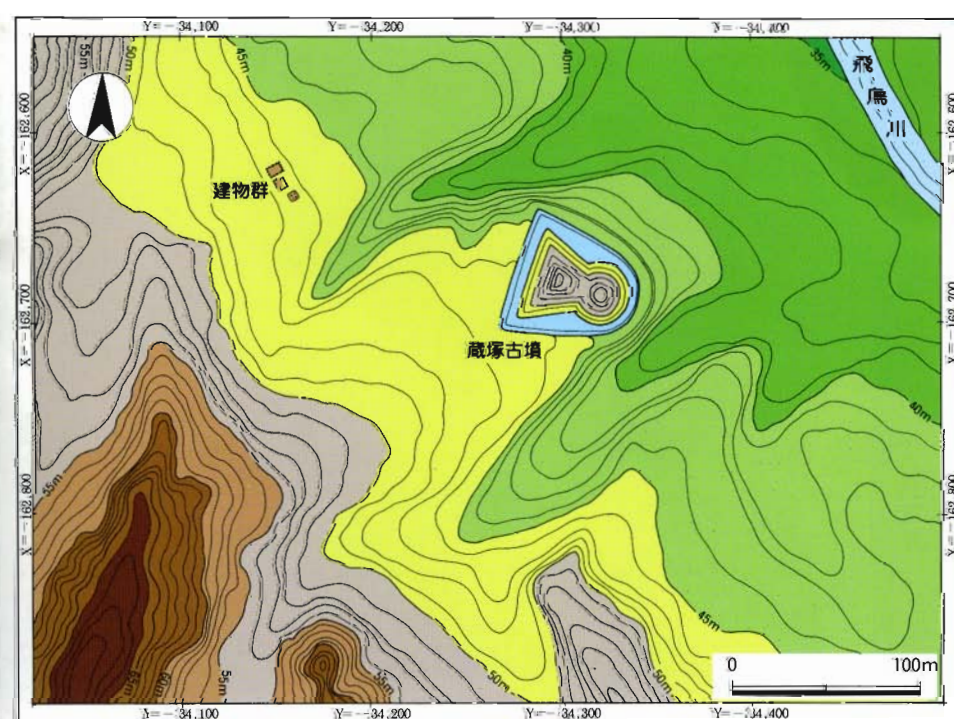
蔵塚古墳が築かれた石川と飛鳥川にはさまれた丘陵上には御旅山古墳などの数基の前期古墳が知られていますが、これらは後期の前方後円墳である蔵塚古墳とは時期的な隔たりがある上に、いずれも西側の石川谷に面しています。一方の蔵塚古墳はこれらの古墳とは異なり、この丘陵の東側斜面に立地し、なおかつ両側を深い谷にはさまれた舌状にのびる丘陵の最先端部を選んで古墳を築造しています。

なお、現状では蔵塚古墳周辺には、前段階の前方後円墳を見いだすことができず、蔵塚古墳は6世紀中頃の古墳時代後期になって当地に突然、築造される前方後円墳であるといえます。また、それが整然と周濠を巡らせる前方後円墳である点は非常に大きな意味をもつものといえます。





▲ 蔵塚古墳周辺の古墳 (昭和36年大阪府地形図をもとに作成)



▲ 蔵塚古墳の立地 (昭和36年大阪府地形図および調査データをもとに作成)

これまでにも飛鳥川東側の丘陵上には飛鳥千塚などの群集墳や近年調査が行われた鉢伏山西峰古墳などの終末期古墳が点在していることは知られていましたが、その対岸にあたる飛鳥川左岸の丘陵東側には古墳が存在することは全く知られておらず、蔵塚古墳の発見は飛鳥川をはさんで向かい合うようにして展開する群集墳との関連においても非常に重要な意味をもつものといえます。

なお、古墳の名称は古墳が見つかった場所に残る「蔵塚」という地名をとって蔵塚古墳と命名しました。

蔵塚古墳の調査

蔵塚古墳は周濠をもつ古墳時代後期の前方後円墳であり、前
 ますが、今回の調査データから全体の形を推定することは可能
 はおよびませんが、飛鳥川沿いの丘陵部には蔵塚古墳に匹敵す
 濠を巡らせるなどの構造においても傑出した古墳であるといえ
 この古墳が左右対称であったとすると、前方部の幅は約60mを
 墳丘は後世の削平が著しく、墳丘上には埴輪・葺石はまった
 していますが、転落した葺石はまったく見られず、少なくとも
 施設は時期的にみて横穴式石室であったと考えられ、周辺から
 なお、後円部の南側の周濠の一部は遅くとも奈良時代には埋
 す。とくに古代の建物には倉庫と考えられるものもあり、蔵塚

▲ 二上山と蔵塚古墳

▲ 空から見た蔵塚古墳

▲ 蔵塚古墳（西から）

▲ 前方部南側周濠の断面（東から）

蔵塚古墳の調査データ一覧

総 長	68.5m	前方部長	26.5m
墳 長	54.0m	前方部幅	推定59.5m (残存38.5m)
後円部径	34.0m	前方部高	2.5m (残存)
後円部高	2.0m (残存)	<びれ部幅>	推定26.5m (残存18.5m)
埴 輪	円筒埴輪Ⅴ期	方 位	N-62°-W
葺 石	なし?	そ の 他	墳丘上面は 削平甚しい

※総長は周濠までを含めた長さ
 ※墳長は前方部端から後円部端までの長さ
 ※前方部幅および<びれ部幅>は、墳丘の中軸線で折り返した推定値
 ※方位のNは磁北

蔵塚古墳は幅約8mの周濠を
 盾形に巡らせていますが、後円
 部の南側や前方部の西側では
 地面を掘り残して橋のように
 した陸橋部分があります。
 後円部のものは南に向くこ
 とが多い横穴式石室の入
 口につながるものであつ
 たのかもしれません。

なお、この陸橋の位
 置は同じ時期の前方後
 円墳である高屋築山
 古墳（伝安閑天皇陵）
 の陸橋の位置と正
 確に一致している
 点は興味深い事
 実であるといえ
 ます。



くらづかこふんのちょうさ

前方部を西側に向けています。古墳の北側は調査範囲外にのびています。墳丘の長さは54mを測り、古市古墳群の大型前方後円墳に匹敵します。古墳の存在は知られておらず、この地域では規模の点でも、周濠が特徴的であり、また、蔵塚古墳は前方部が大きく開く点が特徴的であり、墳丘の直径を上回るようになります。

残っていません。なお、周濠からは少量の土器・埴輪片が出土しています。墳丘全体に葺石は施されていないと考えられます。埋葬は寺山で採れる石英安山岩という石が若干出土しています。また、古墳の周濠は、古代から中世にかけての建物群が営まれているという地名も古代の倉庫群に関連するものかもしれません。



▲ 蔵塚古墳平面略測図 (1/400)



▲ 前方部南側周濠の土坑と土器の出土状況



▲ 後円部の周濠を埋めて建てられた建物群



▲ 建物群を区画する溝679の土器出土状況



▲ 周濠南西コーナーから見つかった土坑885

古墳時代の建物群

こふんじだいのたてもぐん

昨年度の調査では蔵塚古墳の北側の谷をこえた丘陵上から古墳時代後期の建物群が見つかり、谷底を流れる川（流路580）からも古墳時代後期の土器がまとまって出土しています。

調査範囲が限られていることもあり、並んで建てられた掘立柱建物跡2棟と竪穴住居跡1棟を発見したのみですが、いずれも建物の方向を一致させていることなどから、ほぼ同時期に建てていたものと考えています。

この中の竪穴住居跡では北東の柱近くの床面に平たい石が置かれており、その周辺から炭とともに炊飯に用いられた甕や甑といった土器がまとまって出土しています。また、これに混じって須恵器の杯身なども出土しており、これらの土器は蔵塚古墳の周濠の下層から出土したものと共通する特徴をもつものであり、建物群の造営と蔵塚古墳の築造はほぼ同時期であったと考えられます。

また、竪穴住居跡からは土器に混じって円筒埴輪の破片も出土しており、蔵塚古墳からは直線距離にして100m足らずしか離れていないという事実を考え合わせると、蔵塚古墳とこの建物群が無関係であったとは考えられません。

古墳とその被葬者に関わる人々の居住域が谷を隔てて存在していたとも考えられますが、一方で古墳築造のための作業小屋といった性格を有するものであった可能性も残されています。

いずれにしても、建物群はさらに西側の調査範囲外に展開している可能性が高く、現段階では両者の密接な関係を指摘するにとどめ、今後の調査を待つてさらに検討する必要があるといえます。



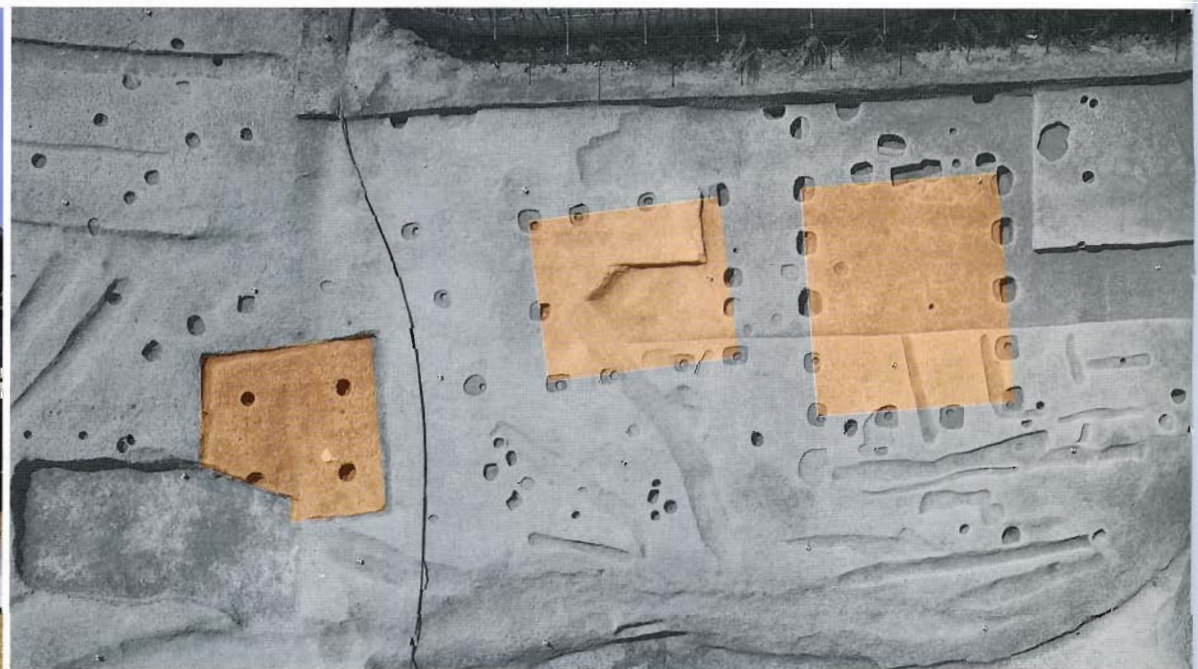
▲ 竪穴住居跡



▲ 並んで建てられていた掘立柱建物跡



▲ 川底から出土した土器（流路580最下層）



▲ 空から見た古墳時代の建物群

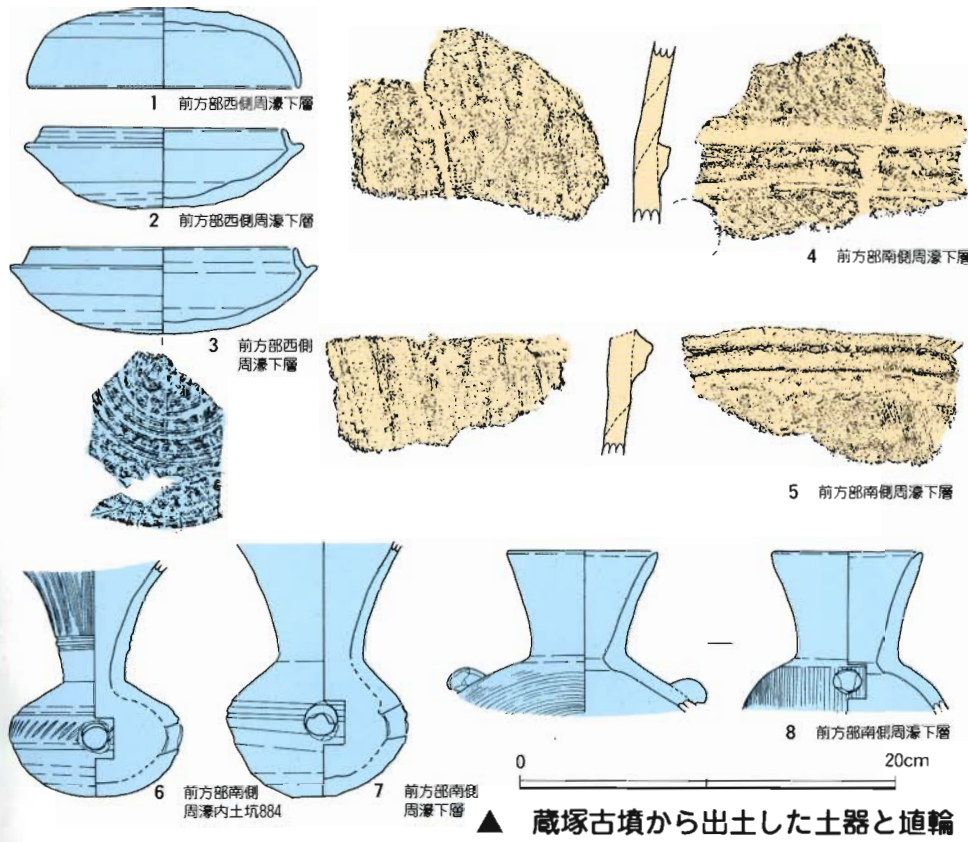
古墳時代の遺物 こふんじだいのいぶつ

蔵塚古墳の周濠からは埴輪や須恵器と呼ばれる土器が出土しています。埴輪の多くは筒形の円筒埴輪と呼ばれるもので外面に赤い色を塗ったものもあります。

須恵器には左の図に示したような器種や甕があり、1～3の蓋杯は前方部の陸橋の近くから出土しています。

そのほか、竪穴住居跡からは土器と円筒埴輪片、谷底を流れる流路580からは須恵器・土師器が出土しています。

出土した土器には若干の時期幅がありますが、6世紀中頃を前後する時期のものといえます。



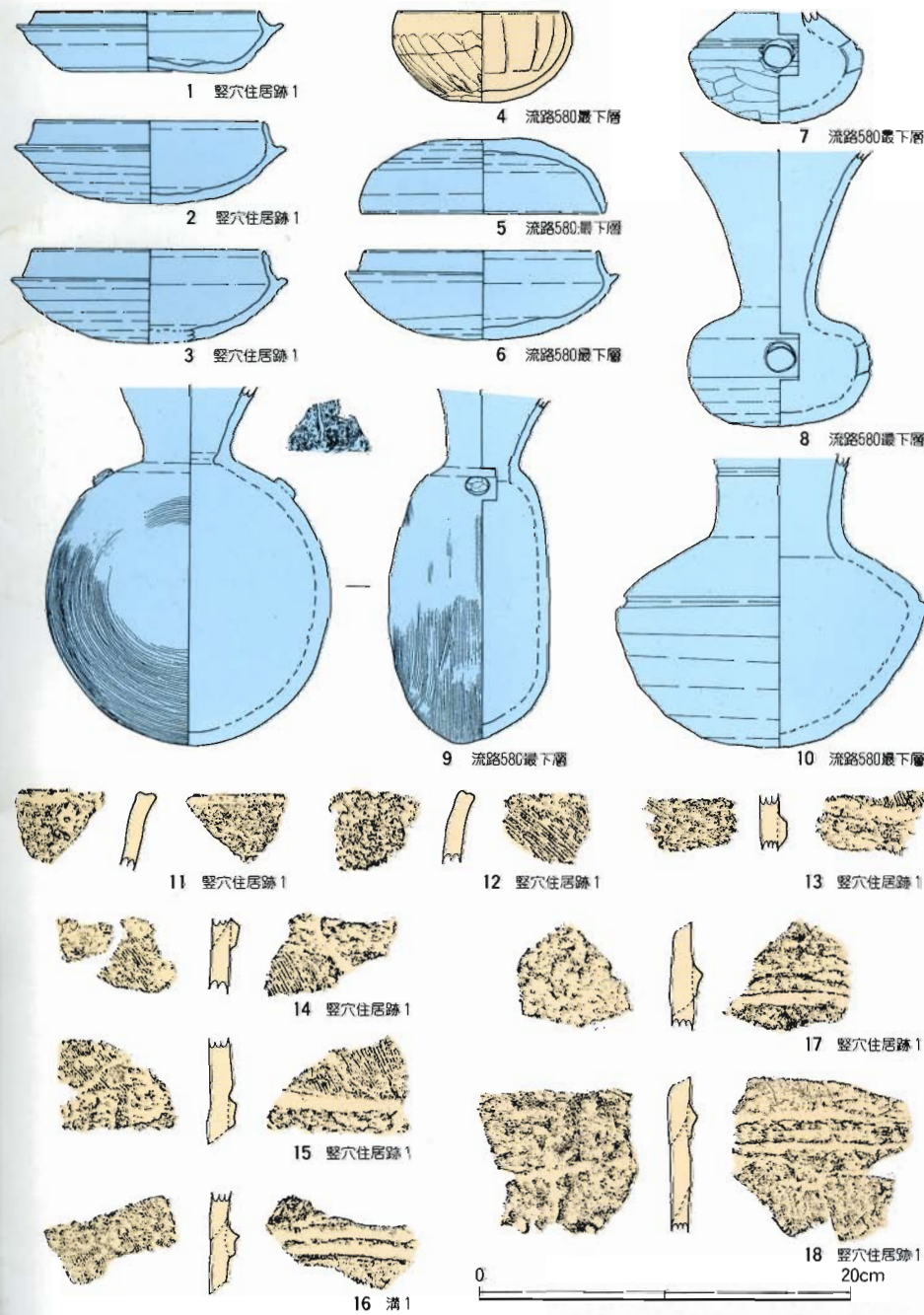
▲ 蔵塚古墳から出土した土器



▲ 流路580から出土した土器



▲ 蔵塚古墳などから出土した埴輪



まとめ

今回の調査では、古墳時代後期に築造された前方後円墳である蔵塚古墳を発見しました。この古墳は北半が調査範囲外にのびていますが、前方部が大きく開く特徴的な形をしていることが明らかとなりました。

蔵塚古墳のこのような形は古市古墳群中の新しい段階の前方後円墳である白髪山古墳（伝清寧天皇陵）や高屋築山古墳（伝安閑天皇陵）と似ており、しかも墳長は白髪山古墳のほぼ2分の1でつくられています。

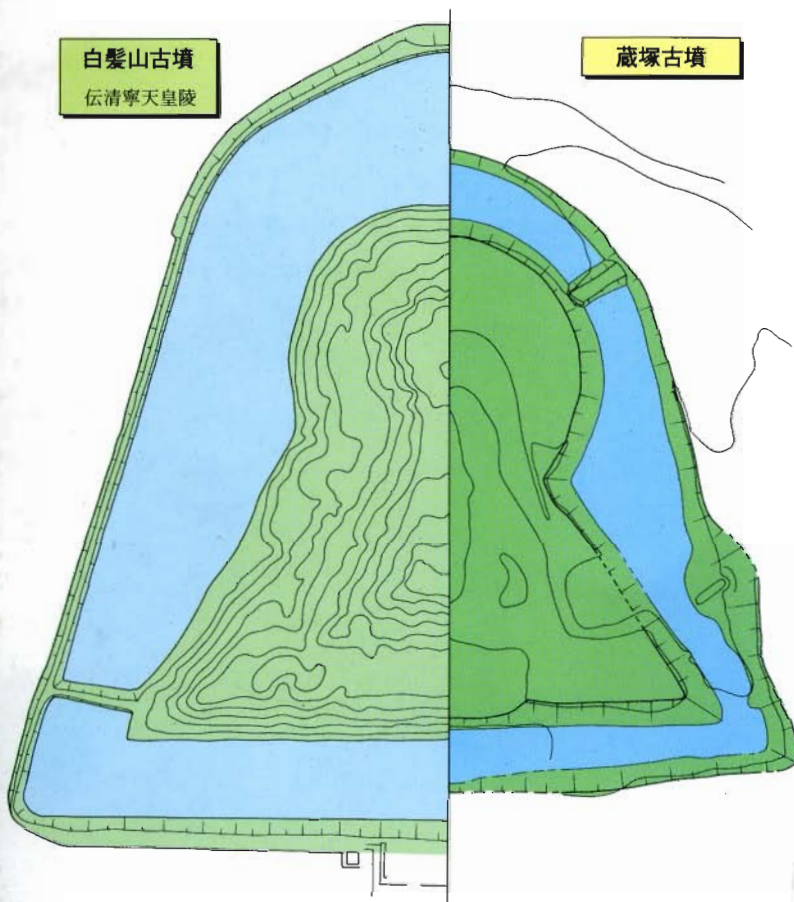
飛鳥川流域においてはこれまで前方後円墳の存在は知られておらず、今回発見した蔵塚古墳は整然とした周濠を巡らせる前方後円墳である点で卓越した存在であり、飛鳥千塚をはじめとする群集墳を中心に考えられてきた当地域の古墳文化を考える上において非常に大きな意味をもつものであるといえます。



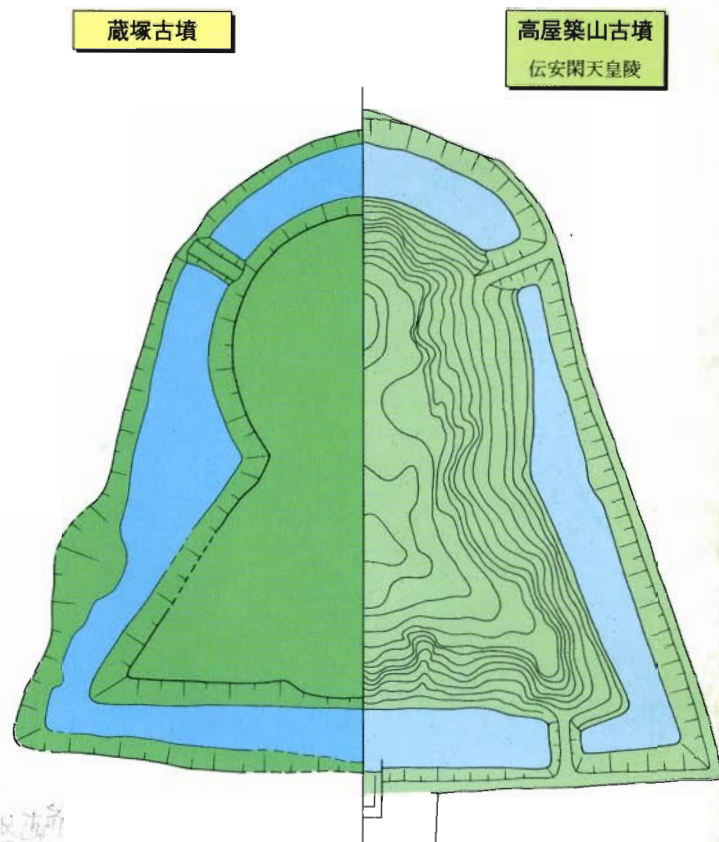
▲ 空から見た蔵塚古墳



▲ 空から見た白髪山古墳



▲ 蔵塚古墳（右：1/800）と
白髪山古墳（左：1/1600）の比較



▲ 蔵塚古墳（左：1/800を反転）と
高屋築山古墳（右：伝安閑天皇陵1/1800）の比較